

## シリーズ 校長先生が若かったころ ②

ふり返れば失敗も多くあります。

石川県と富山県の県境に倶利伽羅峠くりからという所があります。木曾義仲が牛の角つのに松明たいまつをつけて平家の軍勢を奇襲攻撃したとの言い伝えがある場所です。時代は異なりますが前田の殿様が参勤交代で通った旧北陸街道でもあります。

社会の歴史の勉強を兼ねて、担任して間もない6年生の子どもたちを連れてある日曜日に倶利伽羅山ハイキングを計画しました。倶利伽藍駅を降りて4~5kmほどの距離ですから、6年生にとってはそれほど厳しいコースではありません。



古戦場を見下ろす高台で談笑しながら昼食をとり、帰りはみんな前田の殿様になりきって「下一にい、下一にい」の合唱で帰ってきました。

ところが、次の日の月曜日、一人の女の子が欠席しました。原因は腎臓病の再発でした。目の前が真っ暗になりました。担任する子どもの健康状態の引継をしっかりとしていなかった明らかな私の責任でした。1ヶ月の入院加療、その後2ヶ月の自宅療養が必要とのことでした。保護者からの連絡はこうでした。「4年生で発症した腎臓疾患ですが、昨年1年間でかなり回復していました。今回のハイキングを本人はとても楽しみにしていたのと親である私たちが気を許してしまったのがいけなかったのです。先生にはご迷惑をおかけしました。」とのことでした。

とりかえしのつかないことをしてしまったことを悔やみましたが医者ではない自分にはどうすることもできません。当番制で学級の様子を手紙で知らせること、また、私自身が2ヶ月の自宅療養期間中に家庭訪問して学習の遅れを補うことにしました。

幸いにも1学期末にはクラスに復帰することができました。この子はその後看護師さんになったと聞いています。三十数年たった今でも申し訳ない気持ちで思い出すことがあります。